

CASBEE[®]新潟 | 評価結果 |



- 使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築（新築）2016年版
- 使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2

1. 建物概要					
建物名称	株式会社ウオロク様 生鮮デリカセンター建設計画				
建設地	新潟県新潟市江南区				
用途地域	工業地域、法22条地域				
建物用途	工場				
竣工年	2022年4月 予定				
敷地面積	11,878.39 m ²				
建築面積	3,978.41 m ²				
延床面積	7,636.53 m ²				
階数	地上2F				
構造	S造				
評価の段階	実施設計段階評価				
評価の実施日	2021年2月8日				
2. CASBEE新潟の評価結果					
		A		$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{47.2}{28.2} = 1.6$	
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B: ★★ C: ★					
3. 新潟市の重点項目の評価					
1. 長寿命化の取組み 建築物を長く、安心・安全に使い続けるために	平均スコア		バリアフリー計画	Q2.1.1.3	-
	3.4		維持管理	Q2.1.3	-
			設備の更新性	Q2.3.3	3.4
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産を守るために	平均スコア		耐震・免震・制震・制振	Q2.2.1	3.0
	2.9		信頼性	Q2.2.4	2.8
3. 大雨への取組み 大雨に強いまちづくりのために	平均スコア		雨水排水負荷低減	LR3.2.3.1	2.0
	2.0				
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	平均スコア		建物外皮の熱負荷抑制	LR1.1	-
	3.0		自然エネルギー利用	LR1.2	3.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	平均スコア		節水	LR2.1.1	1.0
	3.7		躯体材料以外でのリサイクル材の使用	LR2.2.4	5.0
			部材の再利用可能性向上への取組み	LR2.2.6	5.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな自然環境を次世代に引き継ぐために	平均スコア		生物環境の保全と創出	Q3.1	1.0
	1.5		敷地内温熱環境の向上	Q3.3.2	2.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の個性や魅力を活かしたまちづくりのために	平均スコア		まちなみ・景観への配慮	Q3.2	3.0
	3.0		地域性への配慮、快適性の向上	Q3.3.1	3.0
4. 新潟市の重点項目の配慮事項					
<ul style="list-style-type: none"> ・ケーブルラック、天井点検口、OAフロア等により構造部材だけでなく、仕上げ材を痛めることなく電気配線の更新・修繕ができる ・躯体材料以外におけるリサイクル材を採用している ・LGS下地、パネル工事により躯体と仕上材が容易に分別可能、再利用できるユニット部材としてOAフロアを採用 					

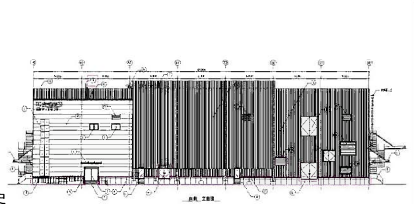
■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

CASBEE[®]新潟

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社ウオロク様 生鮮デリカセンター建設計画	階数	地上2F
建設地	新潟県新潟市江南区	構造	S造
用途地域	工業地域、法22条地域	平均居住人員	300人
地域区分	5地域	年間使用時間	4,380時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年4月 予定	評価の実施日	2021年2月8日
敷地面積	11,878 m ²	作成者	三菱ケミカルエンジニアリング(株) 田川勝史
建築面積	3,978 m ²	確認日	2021年2月8日
延床面積	7,637 m ²	確認者	三菱ケミカルエンジニアリング(株) 田川勝史



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.6 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安を示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.8

Q1 室内環境 Q1のスコア = 0.0

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.7

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 2.2

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.8

LR1 エネルギー LR1のスコア = 4.3

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.2

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.8

3 設計上の配慮事項		
総合 環境に配慮した建物を目標としている。空調負荷を減らせる様、断熱性を有する屋根・外壁材を採用し、汚れ難く、清掃・メンテナンスし易い室内環境を形成している。外装材は周辺に同調した色彩を選定し、建物高さも抑えて周辺環境へ配慮している。		その他 -
Q1 室内環境 -	Q2 サービス性能 階高を高く設定し、壁長さ比率を小さくすることにより空間にゆとりをもたせている。補修必要間隔の長い外壁材、仕上材、配管材を採用するなど建物の耐用性・信頼性に配慮している。	Q3 室外環境(敷地内) -
LR1 エネルギー 断熱材を強化し、建物の熱負荷を抑制している。高効率空調機、LED照明を採用するなど設備システムの高効率化に配慮している。太陽光発電システムを採用するなど、エネルギー面にも配慮している。	LR2 資源・マテリアル ノンフロン断熱材を採用するなど汚染物質含有材料の使用を回避している。また、フリーアクセスフロアを採用するなど部材の再利用可能性向上への取り組みをしている。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出率を49%とするなど、地球温暖化への配慮をしている。広告照明を行わないなど周辺環境へ配慮している。適切な量の駐輪場を確保、荷捌き車両の駐車施設を確保するなど交通負荷の抑制に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される